三学部横断型 ゼミナール・プロジェクト

Three-Faculty Crossover Seminar Project

サイエンティフィック・システム研究会
2011年10月19 日

武蔵大学経済学部　　笠原　一絵

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

- 「知と実践の融合」と「ゼミの武蔵」の伝統
  - ➢少人数制
  - ➢自調自考のゼミナールを重視
    （全学部1年から4年までゼミが必修）

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

- 少人数教育のメリット
  - ➢経済・人文・社会という文系の3学部が4年間ひとつのキャンパスで過ごす
  - ➢学生と教職員の距離が近い

武蔵大学の特徴を活かしたプロジェクト

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトの背景

- 少人数教育のデメリット
  - ➢仲間うちの小さなコミュニティで満足してしまう学生が少なくない
  - ➢大勢の前で主張を行うことや、異質な他者との協働を苦手とする

このような弱点を補うものとしてのプロジェクト

三学部横断型ゼミナール・プロジェクトとは？

他学部や企業との連携

経済学部	Economics
人文学部	Humanities
社会学部	Sociology

企業からの課題

⇒学生がそれぞれの専門性を活かしながら、協働して課題を解決していく点に特徴。

企業からの課題

学部横断で一つのチーム
を構成し、担当企業の
CSR報告書を作成。

『CSR（企業の社会的責任）』とは？
持続可能な社会を実現するため、
企業が社会や環境に対する問題意識を
自主的に事業活動や経営に組み込んでいくこと。

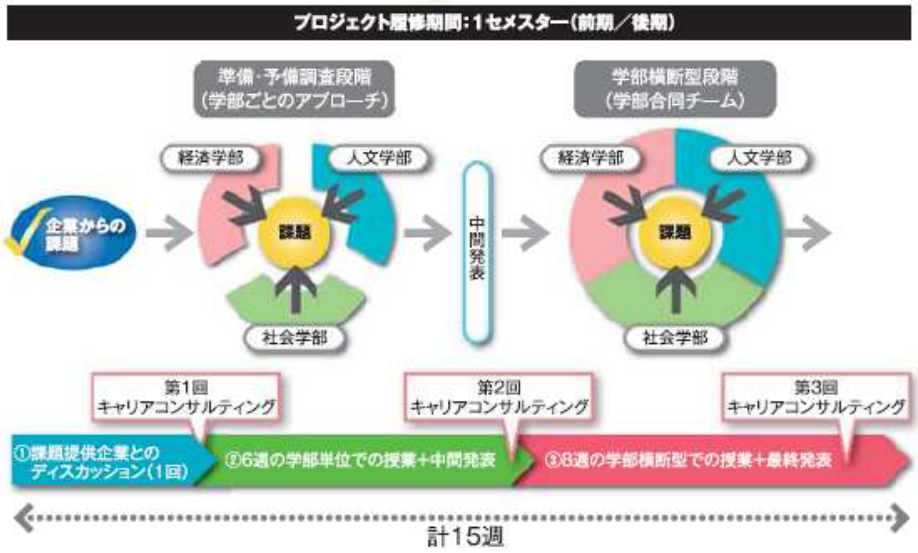
⇒CSRという概念を理解するには、異なる複数の視点から企業の活動を見ることが要求される。

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的１～３
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

本プロジェクトの仕組み



課題：担当企業の「CSR報告書」を作成する

本プロジェクトの仕組み（フェーズ1）

経済学部 Economics

事業内容・流通ルート・財務などを調べる

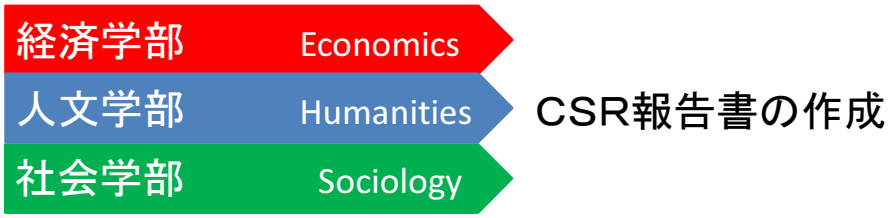
人文学部 Humanities

企業が重視している理念や企業文化を読み取る

社会学部 Sociology

CSRという概念自体を調べる

本プロジェクトの仕組み（フェーズ2）



目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

本プロジェクトの目的

1. 社会人基礎力の養成
2. 正確な自己評価能力の育成
3. CSR報告書の作成を通して、社会的責任を果たすことの意義の理解

本プロジェクトの目的（1）

社会人基礎力の育成

「社会人基礎力とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」（経済産業省）

社会人基礎力の項目

前に踏み出す力	考えぬく力	チームで働く力
• 主体性 • 働きかけ力 • 実行力	• 課題発見力 • 計画力 • 創造力	• 発進力 • 柔軟性 • 規律性 • 傾聴力 • 状況把握力 • ストレスコントロール力

大学で社会人基礎力が求められる理由

実社会で働く上で
役立つ能力の育成

就職活動の困難さ

MUSASHI UNIVERSITY

新入社員教育の
余裕が不足

学部横断ゼミを通じた社会人基礎力の育成

- 大学教育の場においても、社会人として必要となる能力の育成が必要
- ESや面接のテクニックではなく、学生の人間的成長を通じたキャリア支援
  - 学生にとっては、エントリーシートや面接の「テクニック」を磨くのではなく「コンテンツ」を作ることに繋がる

学生たちが直面する問題の例

- （学部ごとに活動する）授業前半に培ったチームワークが、学部横断になってからの学部ごとの対立に繋がる
- ゼミで習った知識・技術（財務諸表分析や社会調査など）を使いたいが、課題にうまく合わない、他学部の学生に理解してもらえない
- 欲しい情報が企業の制約によって得られない
- 企業の担当者の方から、「CSRというが、企業はNPOとは違うので、利益を出さなければならない」と言われる

これらを乗り越えることで
学生達は飛躍的な成長を遂げる

社会人基礎力を伸ばすためのしかけ

学部横断であること

視点・利害の異なる他者と協同する際に生じる
対立を建設的な方向で解決することを学ぶ

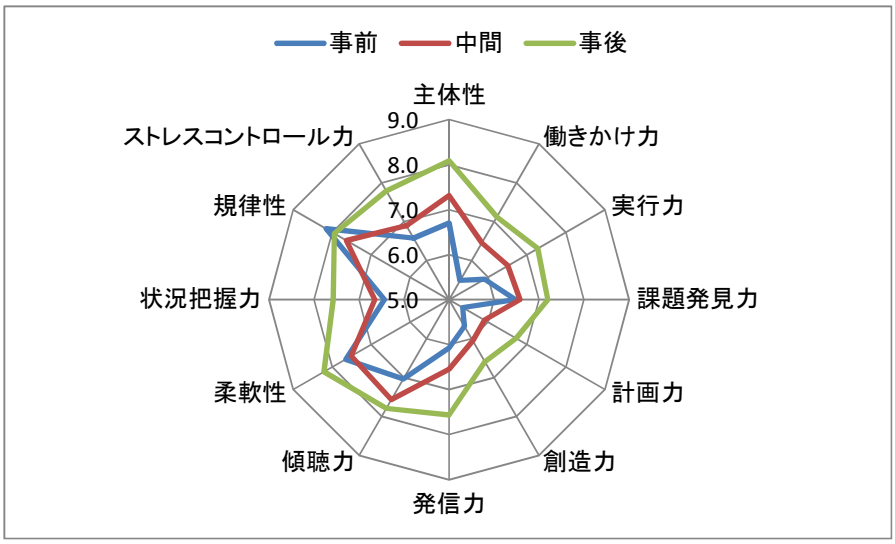
企業様の協力

甘えが許されない環境

キャリア・コンサルタントとの面談・SNSの活用

就職活動はもちろんのこと、その後の生涯学習へと
繋がる正確な自己評価能力の育成

社会人基礎力の伸び（平成22年度後期履修生） N=57

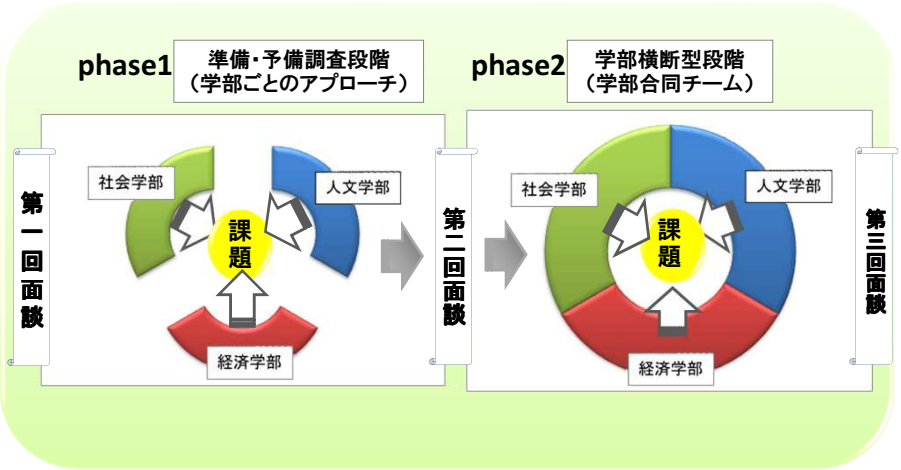


本プロジェクトの目的（2）

目的②：正確な自己評価能力の育成

- 社会人基礎力を指標として自己評価を実施
  - 自己評価シートの記入
- キャリアコンサルタントとの面談
  - 気づかなかった自分の強みや弱みを把握

キャリアコンサルタントとの面談



目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

自己評価能力を育成するために

- 独自で構築したSNSを活用
  - 企業の方への質問
  - 学生同士のやりとり
  - 日記の記入
- 毎授業ごとに、その日の自分の活動を振り返る。
- 授業で何ができて、何ができなかったのかを考える。
  - 自分と向き合う活動

プロフィール作成のルール

- キャリアコンサルティングの資料となるため、学習歴、サークル歴、バイト歴、キャリアに関しての将来の希望や考え方等について書く。
- 顔文字や記号は控える。
- 氏名は本名で登録する。
- 写真は100KBまで。本人の顔をきちんと確認できる写真を使用する。

なぜ日記を書くのか（学生への説明）

①自分自身を見つめる

→「何ができたか、何を考えたか」など具体的な体験を書き、他のメンバーの日記を読んでいくことで、自分自身を知ると共に、それを他者に伝えられるようにする。

②メンバーやグループ全体に目を向ける

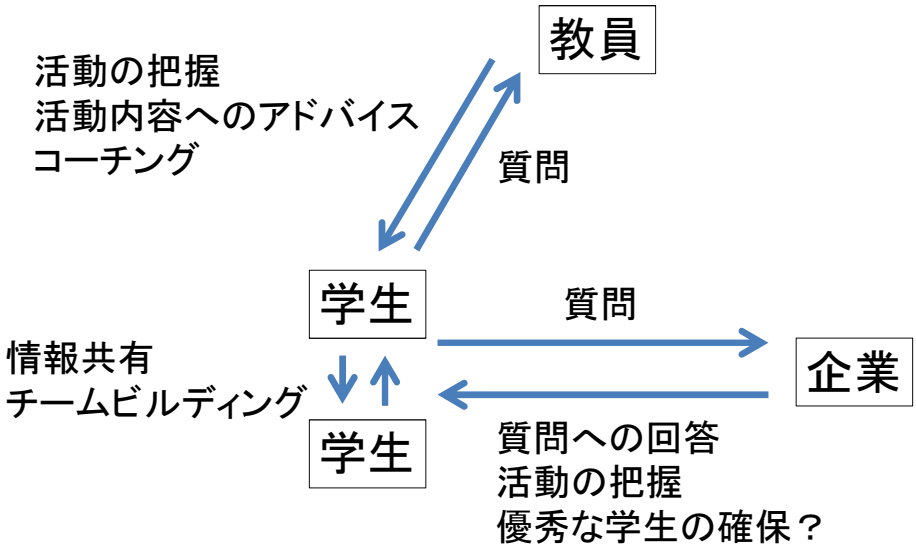
→「メンバーのどんな能力に助けられたか」、「どんな資質がリーダーに必要であることがわかったか」などを書くことによって、お互いの考えを知る。それを通じて、チームワークが形成されていく。

③活動を今後の成長につなげる

→「どんな壁にぶつかったか」、「意見の対立をどのように受け止め、どう解決しようと試みたか」などを書くことによって、今後の成長につながる。

※例えば、エントリーシートの書き方へとつながる

SNSを通じたコミュニケーション



SNSを通じたコミュニケーション

- 日記
  - お互いの日記に対するコメント
- グループ
  - ファイルのアップ
  - スレッド上での議論
- メッセージ

グループの作成

※SNS内では、グループ（コミュニティ）を作り、ゼミメンバー同士や企業の方とやりとりをする。

- グループは、「SNS管理者」が開設する。
- グループ名は、所属学部＋担当企業名。（ゼミ内用）

例）経済学部、エバオン担当→経済エバオン担当グループ

- 企業とのやりとりを行うグループを作成する。
  グループ名は、合同＋担当企業名。（企業用）

例）合同、稲畑香料担当チーム→合同稲畑香料C担当グループ

- 三学部間でやりとりを行うグループを作成
  グループ名は、横断＋担当企業名。（横断用）

例）横断、ミクニ担当チーム→横断ミクニ担当グループ

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的１～３
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

対面でのコミュニケーション

- 学生同士は通常対面での回数が増えるごとに、打ち解けていく
- 教員のスタンスは見守る姿勢
- SNSにおける発言、授業での状況、課外活動での様子を総合的に判断
  - 学生同士がコミュニケーションを取りやすいように後押し
  - 議論が出来ない場合は、本人と個別に対応
  - 場合に応じて、チームメンバーからのサポート
- タイミングを重視

本プロジェクトの目的（3）

目的③：CSR報告書の作成を通して、社会的責任を果たすことの意義を理解

- 社会について考える力の育成
- 現代社会を生きる上で必要となる「多様な視点」を身につける

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他

協力企業

- 一般消費者や学生には知られていないが、その業界に関わる人であれば誰でも知っている企業
- 大企業ではないが、独自の魅力的な製品・サービスを提供している優良企業
- 協力企業を探すのは一苦労
- 協力企業からのコメント

協力企業

2008年前期	2008年後期	2009年前期	2009年後期	2010年前期	2010年後期	2011年前期
㈱鷲宮製作所	㈱Advanex	愛知産業㈱	オリエンタルモーター㈱	スガツネ工業㈱	稲畑香料㈱	東光電気工事㈱
				大陽ステンレススプリング㈱	㈱コガネイ	エバオン㈱
㈱牧野フライス製作所	SMK㈱	並木精密宝石㈱	長野計器㈱	㈱フォーバル	㈱不二製作所	㈱TOZEN
				リオン㈱	㈱ミクニ	星光PMC(株)

学生の視野を広げるために企業間取引(B to B)中心の企業

学生の就職志向

- 学生たちは、大企業志向というよりは有名企業(B to C)志向
  - なぜなら、B to B企業を知らない
  - 膨大なB to B企業の中から志望企業を選択するすべを知らない
- 保護者はさらに顕著？
  - 「そんな名前も知らないような企業に入れるために大学に行かせたわけではない」

課題提供企業（大企業）の例

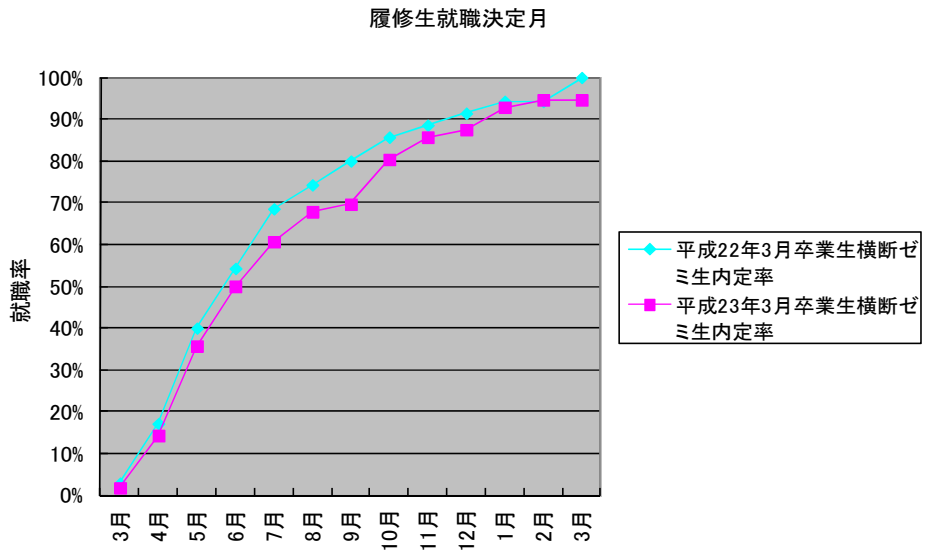
- 長野計器株式会社
  - 東証一部上場、従業員数2012名
- 株式会社ミクニ
  - 東証二部上場、従業員数1722名
- 東光電気工事株式会社
  - 東証一部上場、従業員数1046名

「（学生の知らない）大企業」も含まれる

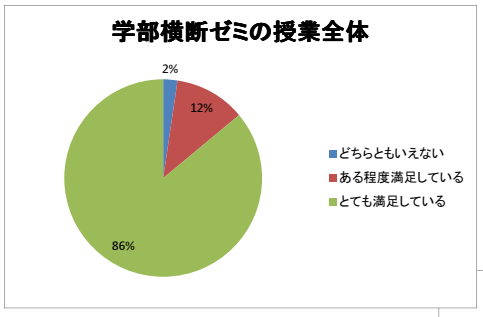
横断ゼミOB・OGの就職活動

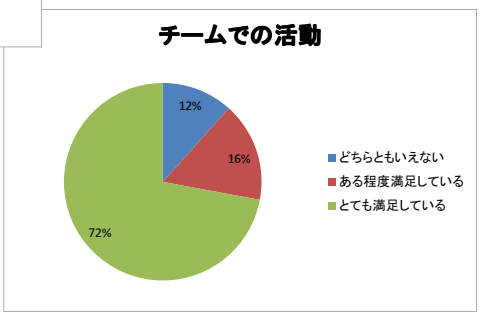
- 有名企業・大企業に挑戦することを躊躇しない
- 知名度以外の多様な評価軸を持っており、自分に合ったB to B企業、中小企業を探し出すことができる
- エントリーシートやグループディスカッションの通過率が高い
- 内定率が高く内定時期が早い

履修生就職内定率の月別推移
（平成21年度、22年度卒業生対象）

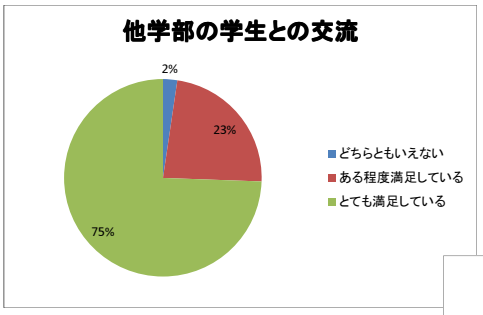


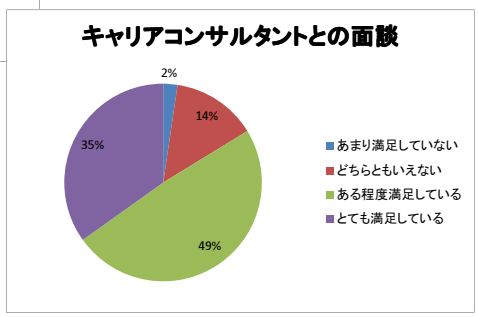
授業に対する学生の満足度
（平成22年度後期履修生） N=57





授業に対する学生の満足度（平成22年度後期履修生） N=57





プロジェクトの推移

2007年2月
三学部横断型で行う新しい「ゼミナール」の設計開始

2007年6月
経済産業省「平成19年度産学連携における社会人基礎力の育成・評価事業」に採択。

2007年9月後期セメスター
採択事業として授業開始

2008年4月前期セメスター～現在に至る
「学部横断型課題解決プロジェクト」として正規科目化

2009年10月
文部科学省平成21年度「大学教育推進プログラム（教育GP）」に採択。

支援を受け、財団法人日本生産性本部と共同で、自己評価ツールを開発。

課題が「CSR報告書」に固まり、回を重ねるごとに学内の認知度が高まり、マスメディアにも取り上げられるようになる。

正規科目化後の履修生が4年次を迎え、就職活動における効果が実証されつつある。

支援により、ノートPCの一人一台貸与や電子黒板などの体制整備が可能になる。2010年から2クラス、2011年から3クラス化。

目次

三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

1. プロジェクトの背景と概要
2. プロジェクトの仕組み
3. プロジェクトの目的1～3
   - SNSを通じたコミュニケーション
   - 対面でのコミュニケーション
4. 協力企業とプロジェクトの推移
5. その他